



熊本と宮崎の県境、「秘境」と呼ばれる五家荘地区。自治医大卒業後、九年間を故郷の熊本県で地域医療に従事した私は、最後の二年間、この五家荘地区にある椎原診療所で勤務しました。熊本県も全国的な傾向と同じように、特に郡部での医師不足に悩まされており、自治医大卒業医師の需要は大変高くなっています。

顔見知りばかり

最も近いほかの病院までは、車で一時間半から二時間以上かかります。バスや電車などの交通機関はないため、自分で車を運転しない高齢者は診療所が唯一の頼りです。しかも、冬は大

患者さんとのゆっくりに向き合おう

雪で、台風や梅雨時期はがけ崩れで地区が孤立し、陸の孤島になることもしばしば。自衛隊からへりて救援物資が運ばれたこともありました。普段、診療所を訪れるのは、

顔見知りのお年寄りばかり。知らない人が受診することはほとんどなく、私が知らなくても看

護師さんはその親せき関係までも必ず知っています。血圧を測って、診察をして、しばらく話を

それは最先端の知識や技術に反映されるものではありませんが、医師として、また一人の人間としての成長という点で、有意義な経験だったと思います。今は自治医大付属病院で多忙な時間を過ごしていますが、高齢の患者さんから、「とても説明が丁寧で分かりやすかった」と

人間として成長

自治医大卒業医師は、若く血気盛んな時期にこのようなへき地で働く機会が多く、「ほかの同年代の医師は都市部で高度な技術を学んだり、研究をしたりしているのに自分は」と焦る気持ちを感じることが一度はあると思います。確かに手術の技術を習得することは困難です。最先端の医療を行うこともありません。

そんな時、診療所での経験が生きていると感じ、患者さんと向き合うことの大切さを、また思い出します。付属病院で専門的な医療を学んでいます。医師として成長し、いつかまた地域医療に戻るための修行の日々だと思っています。

いけもと ともかず
池本 智一 21期生、1998年卒



360度を山に囲まれた「秘境」と呼ばれる地域にある椎原診療所

八代市立椎原診療所

【私の勤務地】熊本県八代市にあり、日本の秘境百選に選ばれている五家荘地区で唯一の医療機関。医師、看護師、用務員兼送迎車の運転手各1人。小山市よりやや広い面積に461人の住民が散在している。ちなみに隣接する小学校は全校生徒2人。

しかし、診療所ではすべての患者さんとゆっくり向き合って話すことができました。一人の患者さんのために家族、親せき、ヘルパーさん、保健師さんなど、

池本医師は異動となり、現在は自治医科大付属病院に勤務しています。

(次回予定は岡山県)